

『あなたの信仰は働いていますか？』

'20/11/08

聖書箇所: マルコの福音書 4 章 35-41 節 (新約 p.72)

皆さんは、何かを持っているのに、それが使えずに悔しい経験をしたというようなことがないでしょうか？
…例えば、保険に入っていたのに、しかも、それが使えるのに、保険に入っていることを忘れていたために、もう請求期限が終わってしまった…。ま、そういったような経験です。

命題: 私たちクリスチャンが平安でいられる理由について…？

実は、今日のみことばは、そういったような…、つまり、絵に描いた餅…、あるいは、絵に描いた信仰…とも言えるようなエピソードについて教えてくれています。…と言いますのも、イエス様は、最後の晩餐を終えられて後、弟子たちに対して、こう教えてくださったからです。ヨハネ 14:27、『わたしは、あなたがたに平安を残します。わたしは、あなたがたにわたしの平安を与えます。わたしがあなたがたに与えるのは、世が与えるのとは違います。あなたがたは心を騒がしてはなりません。恐れてはなりません。』って…。→ イエス様は、私たちに、特別な『平安』というものを与えてくださいました。それは、明らかに、この世がもたらしてくれるような平安…、満足や快樂とは違うものです。

しかし、私たちが、実際に、その『平安』を自分のものとするかどうか…、あるいは、その『平安』を保ち続けることができるかどうか、ということに関しては、私たちの選択…、あるいは、私たちの歩みにかかっていると言っても過言ではありません。そこで、今日は、マルコ伝 4 章のみことばから、私たちが平安でいられる理由について、と一緒に学んでいきたいと思えます。まず、初めに、今日のみことばである、マルコ 4:35-41 を読ませていただきます。

- 35 さて、その日のこと、夕方になって、イエスは弟子たちに、「さあ、向こう岸へ渡ろう」と言われた。
36 そこで弟子たちは、群衆をあとに残し、舟に乗っておられるままで、イエスをお連れした。他の舟もイエスについて行った。
37 すると、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって、水でいっぱいになった。
38 ところがイエスだけは、とものほうで、枕をして眠っておられた。弟子たちはイエスを起こして言った。「先生。私たちがおぼれて死にそうでも、何とも思われなないのですか。」
39 イエスは起き上がり、風をしかりつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、大なぎになった。
40 イエスは彼らに言われた。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、どうしたことです。」
41 彼らは大きな恐怖に包まれて、互いに言った。「風や湖までが言うことをきくとはいったいこの方はどういう方なのだろう。」

I・イエス・キリストは、自然界をも支配しておられるから！

今読んだみことばをご覧ください、分かる通り…、イエス様は、風や水といったような“自然界”をも意のままに支配しておられた！ということが分かります。ですから、私たちは様々なことをむやみに恐れることなく…、平安をもって生きていくことができるはずなんです。まずは、そのことを見ていきたいと思えます。

●イエス様が命じると…

ここしばらく、ずっと学んでいます通り、この時、イエス様の一行はガリラヤ地方で伝道をしている最中でありました。ですから、今日のみことばに出てくる『湖』とは、ガリラヤ湖のことです。このガリラヤ湖ですが、面積は日本の琵琶湖の4分の1ほどで…、海拔は▲213m ほどの高さにあります。つまり、このガリラヤ

湖は、海よりもかなり低い高さにあるわけなのです。しかも、このガリラヤ湖は、地図をご覧ください分かります通り、その周囲のほとんどが山や丘に囲まれてあります。だから、このガリラヤ湖周辺は、四方が山々に囲まれているせいもあって、周囲からの冷たい風が湖近くの暖かい空気とぶつかって、今日のみことばにあるような嵐が起こりやすいとも言えるわけです。

実は、私は、今から 20 年程前(=1998 年)に、このガリラヤ湖を訪れたことがあります…。その時に、私が驚かされたのは、宿泊先のホテルから、このガリラヤ湖を眺めようと、窓を覆っていたカーテンを開いたのですが、すると、窓から見えた景色が全面赤っぽくて…、一瞬、自分の目がどうにかなくなってしまったのか？とってしまったほどでした。後で聞いて分かったのは、その時、ガリラヤ湖周辺では、砂嵐が起こっていて…、そのせいで周囲の赤っぽい砂が舞い上がって、そのせいで赤っぽく見えていたのです。

このガリラヤ湖の底で、1986 年、かなり古い舟が発見されました。何と、その舟を、炭素測定法という方法で調べてみたら、それが約 2000 年前の舟と分かったのです。2000 年前と言いますと、イエス様がお乗りになった舟かも知れないということになります。その舟は、今も、ガリラヤ湖の近く(イガル・アロン・センター)で展示されています。今も、ガリラヤ湖に行きますと、この舟を模した舟に乗って、ガリラヤ湖を遊覧することができます。私たちがガリラヤ湖を遊覧した時も、先程言った砂嵐のせいで、湖の上では結構な風が吹いていました。ちょうど、イエス様の一行がガリラヤ湖を訪られた時も、そのようなと言うか…、もっとひどい嵐が襲ってきたわけです。

それで、弟子たちは舟が転覆するかも知れないと怖くなって…、眠っておられたイエス様を起こします。すると、イエス様は起き上がり、『風をしかりつけ、湖に「黙れ、静まれ」と言われた。すると風はやみ、大なぎになった。』というのです。何と、イエス様は、『風』や荒波でさえも、ご自由にできる…。イエス様の力は、自然界にまで及ぶものである！ということ、今日のみことばは証してくれているのです。

●すべてを支配しておられるイエス・キリスト

皆さん。ちょっとここで、マルコの福音書に見られる話の流れというものを復習していきたいと思えます。…と言いますのは、この福音書を書き記したマルコは、聖霊なる神様の導きもあって、1つ1つのエピソードだけではなく…、話と話の繋がりがりや全体的な流れをもってしても、大切なメッセージを、私たちに伝えようとしてくれているからです。

どうぞ、皆さん。少し前の、マルコ 2 章前半部分をご覧ください。このみことばは、イエス様のところに、中風の人が友人たちに連れられて、やって来たというエピソードが紹介されています。ここで、イエス様は、その中風の者に対して、『子よ。あなたの罪は赦されました』(マルコ 2:5)という宣告をなさいます。すると、そこにいた律法学者たちは、『この人は、なぜ、あんなことを言うのか。神をけがしているのだ。神おひとりのほか、だれが罪を赦すことができよう。』と思うわけです。…果たして、罪を赦せる、このイエスというお方は、一体何者なのか？となるわけです。

そうして、4 章に入ってから、「種蒔きの例え」を通して、『神のみことば』に対する個人個人の応答というものが問われます。そうして、今回のみことばを通して、イエス様が強風や荒波を収められたのを見て、弟子たちは、恐れをもちつつ…、以前にも増して、「一体、イエス様とは何者であられるのか？」という問いを突き付けられます。また、来週に私たちが学ぼうとしている箇所には、悪霊を退治されるイエス様の姿が描かれています。そうして、しばらく後には、「12 年間、長血を患った女の癒し」と、会堂管理者の娘が生き返らせられた！というエピソードが続いています。そういったエピソードすべてを通して、この福音書は、このイエス様こそがすべてを支配しておられる！真の神であられ…、唯一の救い主である！ということ証してくれているのです。

マルコによる、この証言…、つまり、イエス様こそは真の神であられ…、唯一の救い主であられる！という証言は、もちろん、6 章以降も、最後 16 章に至るまで続いていきます。それに、マルコだけではありませ

ん。この聖書全体が、はっきりと証してくれています！このイエス・キリストこそ、すべてを支配しておられる真唯一の神であられる！って…。私たちもまた…。この当時の弟子たちと同様、「果たして、このイエス様とは、一体、何者なのか？」という質問に対して、はっきりとした結論を出さないといけないのです…。

II・そのイエス様が、私たちと 共におられる から！

さて、その次に、私たちが確認をしていきたいことは、イエス様が、「共におられる」ということでもあります。先程、見ましたように、このイエス・キリストというお方は、すべてを支配しておられる、真唯一の神であられます。そのことは、この福音書を書き記してくれたマルコ以上に…。他の誰より、イエス様が1番に主張されていたことでもあります。そんなイエス様が共におられるから、私や皆さんも平安でいられるのです。

●弟子たちの問題点

今日のみことばに戻っていただきまして…。ぜひ、皆さんに注目してほしいのは、40 節で、イエス様が弟子たちに対して、『**どうしてそんなにこわがるのです！ 信仰がないのは、どうしたことです？**』と言われた、お叱りの言葉です。…一体どうして、この時、イエス様は弟子たちに対して叱られたのでしょうか？⇒その理由は、彼らの行動に、イエス様に対する“信仰が見られなかったから”です。そうじゃないでしょうか？

2000 年前の、この当時、ガリラヤ湖で彼らが乗った舟は、そう大して大きなものでなかったことは明らかです。先程、私が言ったガリラヤ湖の底で見付かった舟に関して言えば、その大きさは、定員にして 10 名ほどの小さなものです。そのような、さほど大きくもない舟に、イエス様と弟子たち…。10 数人が乗り込んでいた時に、ガリラヤ湖特有の突風が吹き荒れます。舟は波をかぶって、今にも転覆しそうです。そんな時、危険を感じた弟子たちが、イエス様に助けを請うとして、イエス様を起こしました。一体、彼らの行動のどこが、問題であったのでしょうか？

⇒どうぞ、38 節をご覧ください。ここで、弟子たちは、『**先生！ 私たちがおぼれて死にそうでも、何とも思われぬのですか！**』と言って、イエス様を起こしたとあります。ここで、『**先生**』(διδάσκαλος)と訳されている言葉は、「先生、教師…」というような意味を持っています。

どうぞ、できましたら、ルカ 5 章を開けてみてください。このみことばは、今日の出来事よりも少し前の話…。あの 12 弟子の 1 人、シモン・ペテロがイエス様によって召された時のことが記されています。この時、漁師であったシモン・ペテロは、夜通し漁をしたにも関わらず、1 匹も魚が捕れませんでした。しかし、そんなペテロに対して、イエス様は、『**深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい…**』と言われます。その少し前、ペテロは、自分のしゅうとめをイエス様によって癒されたという経験がありました。それで、ペテロは、イエス様の言葉に疑いを抱きながらも、イエス様の言葉通り、従ってみようと試みます。その時に、ペテロの口にした言葉が、ルカ 5:5 です、『**先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれませんでした。でもおことばとおり、網をおろしてみましよう。**』⇒この時、シモン・ペテロは、イエス様に対して、「先生」という風に呼びかけています。

その後、イエス様のお言葉通りに、網を下ろしてみたペテロは、2 艘の舟が沈みそうになるほどの、たくさんの魚を捕ることができました…。そして、そのことによって、ペテロは、「このイエス様は、ただの先生というようなお方ではない！」ということを知ります。ですから、8 節をご覧くださいと、つい先程まで、イエス様のことを、『**先生**』と呼んでいたペテロが、『**主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから…**』とまで言う者へ変えられたのです。この時、ペテロが使った『**主**』(κύριος)という言葉は、先程の『**先生**』という言葉よりも、より尊敬が備わった表現をする場合に使われる言葉で…。この言葉は、「支配者、君主、国王、帝王、(妻が自分の夫に対して)主人…」などを指す場合にも使われています。

が、1 番の特徴は、多くの場合に、「神」を指して使われているということです。この時、恐らく、ペテロは、このイエス様は神かも知れない！ということを知ったはずであります。だから、ペテロは、イエス様に対して、どうぞ、自分のような罪深い人間から離れてください！と願ったのではないのでしょうか！

しかし、今日のみことばに戻っていただきまして…。この時、弟子たちが、イエス様に対して発した言葉は、「主」ではなく…。『**先生**』でありました。つまり、この時、弟子たちは、イエス様のことを、神として信じているかいないか…。はっきりしていない頃であったと思われます。実際、この時の彼らの行動を見てみると、そのことを物語っているように思われます。

だってね、皆さん…。もしも、神であられる御方が、自分たちと一緒に舟に乗っておられたとしたら…。果たして、自分の乗っている小さな舟が荒波によって沈んだりすると、恐れるでしょうか？そこには、神が…。たった 1 週間で、すべてのものを造られた全能者なる神様がおられるのですヨ！残念ながら、弟子たちは、そのことが十分には分かっておりませんでした…。だから、イエス様は、彼らの信仰が足りないことを…。彼らの信仰が生きて、“働いていない”ことを叱られたのです…。

●みことばが教えてくれている約束

どうぞ、皆さん。マタイ 28:18-20 のみことばを思い出してみてください。『**…わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。**』⇒これは、イエス様が昇天していかれる際に、弟子たちに残して下さった言葉です。この言葉は、イエス様を信じ、救われた者全員に対するイエス様からの約束でもあります。

今日のみことばの場合、弟子たちは、イエス様というお方が自分たちと共に居て下さっている…ということの意味を、しっかりと理解しておくべきでありました…。また、それと同じように、私たちクリスチャンの場合も、先程読んだ聖書のみことばが、いつも、イエス様が私たちと共に居て下さっている！ということをしつかりと覚えておくべきことが大事なのではないでしょうか？

それは、もちろん、教会に来ている時だけではありません。例えば、家庭にいる時も…。あるいは、職場にいる時も…。あるいはまた、どんなに困難で厳しい環境にある時だって、常に、イエス様が私たちと共に居て…。私たちが大変さを知って下さっています！だから、イエス様は、ここで「自分には天にあって…。あるいは、地にあって…。一切の権威が与えられている！だから恐れるな！」という話をしてくださっているのです。イエス様の助けが…。あるいは、イエス様の力が及ばないところは、どこにも在りません！すべてのことは神様のみこころの内にあるのです！もしも、そういったことを私たちが本当の意味で理解できていたら…。一体、何を私たちが恐れることがありましよう？

III・私たちが、信仰 を持っているから！

そうして、次に、私たちが確認していきたいことは、私たちの“信仰”であります。私たちが、“信仰”というものを持っているから…。だから、私たちは、常に平安で居続けることができるのです。最後に、そのことを確認していきたいと思えます。

●あるべき信仰とは？

今日のみことばと非常によく似た、イエス様の教えとイエス様の叱責がなされている箇所がありますの

で、どうぞ、マタイ 6:27-30 をご覧くださいませ。『27 あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。28 なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。29 しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほども着飾ってはいませんでした。30 きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくしてくださらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち。』

⇒ここで、イエス様は、真の神様という御方が、如何に、恵みと憐れみとに富んだ御方であられるのか？ということをお思い起こさせようとしてくださっています。神様という御方は、誰にも知られずに、そこらに咲いていて…、明日は燃やされてしまうような野のゆりでさえ美しく飾ってくださるような御方です。だから、私たちは、その神様からの愛や恵みを覚えて、もっともっと…、期待をもって生きていくべきことを、イエス様は教えてくださったのです。

ここでも、イエス様は、神様の愛や恵みを信じて…、期待をもって歩めないような者たちのことを、「信仰が薄い！」と言って、叱っておられます。先程の場合もそうでしたが、どうして、私たちは、困難や難しい問題に直面してしまうと、平安を無くし…、恐れを持ってしてしまうのでしょうか？⇒それは、私たちの信仰に問題があるからなのです！

ヘブル 11:6 に、このような教えがあります。『信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならぬ…』って…。また、その少し前、ヘブル 11:1 では、『信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。』ということが教えられてあります。聖書が教えてくれている、本物の信仰というもの、この世にあるたくさんの宗教や神々の中から、キリスト教を選んで、教会に通う…ということではありません。本当の信仰とは、真の神様を信じ…、その神様に期待する…、もっと言えば、神様にすべてをお委ねする！ということなのではないでしょうか。

残念ながら…、今日のみことばに出てくる、嵐によって分かったことは、まだ、この段階では、弟子たちには、信仰の実践が見られないということでした。彼らに必要であったのは、正しい行ないをするための難しい教えを習得することでも、厳しい修行を行なうことでもありません…。信仰の対象である、イエス様に対する正しい理解…、神様に対する信頼こそ、彼らに必要だったのです！当時のパリサイ人たちは、表面的な行ないにばかり気にかけて…、外見ばかりを取り繕うとしていたから、イエス様から激しく非難されてしまったわけですね…。

そういったことは私たちも同様です…。私もそうですが…、恐らくは、皆さんも、様々な困難や不安に駆られることがあるでしょう。でも、そういった時も、実は、私たちには必要なのです。だって、そういったことによって、私たちは、自分自身の信仰を、もう1度、吟味することができるからです。

例えば、今、神様は、全世界的に、新型コロナウイルスというチャレンジを与えておられます。正直、新型コロナのために、大変なご苦労や困難を経験しておられる方が山ほどおられます。でも、そういった中であって、この神様に信頼し…、神様の前に正しい歩みをしていけるかどうかで、その人が持っている信仰が試され…、また、明らかになっていくのではないのでしょうか？

…と言いますのは、なかなか、私たち…、こんな風な試練や困難がないと、自分自身が持っている信仰というものが目に見えて現れてこないのです！判断できないのです！だって、物事がうまく進んでいたら、いつだって、感謝できるでしょ？また、平安でいられるわけでしょ？それのどこに、信仰が働く余地があります？

聖書を見てみると、本当に真の神様を信じて救われた者たちは、どんなに大変な状況の中にあっても、その神様を信頼して、その神様の前に正しい歩みをしていっています。そうだったでしょ？…例えば、創世記に出てくる、あのヨセフです。ヨセフは、何か特別大きな罪を犯したわけではありませんでした。しかし、彼は、兄弟に売られて、遠くエジプトの地に追いやられてしまいます…。ヨセフの父、ヤコブは、もうヨセフは死んでしまったものと諦めてしまいます。エジプトに売られてしまった後も、ヨセフには、大変な困難が襲います。しかし、そんな中であって、ヨセフは、最後まで信仰を失うことなく、神様を信頼して歩んでいきます。そんなヨセフが、とうとう、その苦勞が報われて、最後の最後、自分のことをエジプトに売り飛ばした兄弟たちに向かって、こんな告白をしています。創世記 50:20、『あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。…』⇒これは、私たちに襲う…、様々な問題の背後には全知全能なる神様がおり、その神様が、すべてのことを導いて、最後には良いことをなして下さる、という意味です。そのように、真の神様には何一つミスも犯されることも、あるいは、不可能なこともありません！現に、神様は、今日に至るまで、皆さんのことや、この教会を憐れんでくださって…、常に、私たちの必要に応え…、いつもいつも、最善のことをなし続けてくださったじゃないですか！そうでしょ？

じゃあ、今度、私たちは、その神様に対して、どうやって報いていくべきなのでしょう？私たちを救うために、すべてを犠牲にして、あの十字架にまでかかって、そのいのちさえ犠牲にくださったイエス様に対して、私たちは何をもって報いることができるのでしょうか？どうぞ、そのことを、クリスチャンであるお一人おひとりが考えて、歩んでいってくださいますことを願います。

●私たちとイエス様をつなぐもの

そして、最後に…、未だ、イエス様を信じておられない皆さんにお勧めさせていただきます。すべてを御存じで…、すべてを御支配しておられる真の神様は、素晴らしい恵みをもって、皆さんのことを愛し、皆さんに救いを与えようとしてくださっておられます。先程、引用したみことばには、『信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。…』(ヘブル 11:6)とありました。神は、皆さんが正しい歩みをされること以上に…、まずは、皆さんのことを造ってくださった神様のことを信じ、受け入れてくださることを期待しておられます。

このことを私たちの人間関係に例えますと、ちょうど、子どもが自分の父親を拒んでいる姿に例えられることがあります。いくら皆さんが成績優秀で…、また、品行方正に歩もうとも…、あるいは、この世にたくさんの功績を残そうとも…、あるいは、毎日を平安の内に過ごそうとも、自分の父親を父親として認めないでは、父親に喜ばれることはありません…。それと同じように、私たち人間に必要なのは、まず、自分の造り主である神様をしっかりと信じ、その上で、神様の前に正しく歩んでいくことであります。

<励ましの言葉>

聖書は、繰り返し繰り返し…、私たちが本物の…、あるいは、正しい信仰を持つべきことを教えてくれています。でも、その信仰とは、ある意味において、事実の確認ではありません。どういふことかと言いますと、最後は、私たちの側の決心、私たちの側の選択が必要なのです！…例えば、イエス様が十字架にかかって死なれた後、弟子たちの前に姿を現してくださいました。その時、疑い深かったトマスに対して、イエス様は、こう諭されました。『あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。』(ヨハネ 20:29)、『信じない者にならないで、信じる者になりなさい。』(ヨハネ 20:27)って…。

そういう意味におきましては、100%の事実が確認されてからの信仰というものは有り得ません。神は、あなたが、神様のことを信頼して歩んでいかれることを望んでおられます。もしも、あなたが造り主なる神様がおられることを信じ…、そして、聖書を信頼しておられるのなら…、最後は、勇気をもって、このみこ

とばが証しをしてくれているイエス様を、あなたの神、あなたの救い主として信じ、受け入れてくださいますようにお願いいたします。

そして、クリスチャンの皆さんは、どうぞ、その信仰の初心に、もう1度、立ち返ってくださって…、この神様のことを、引き続き、信頼して…、愛して…、歩いていただきますようにお願いいたします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。